令和８年度　　石山高等学校　学校評価

本年度の重点目標

・主体的な課題解決学習や体験的な学習、高大連携による探究的で知的好奇心を高める学びなど、多様な学びの機会を通した健全な心身の育成。
・主体的な生徒会活動・地域と連携した活動の活性化を図るとともに、挨拶のできる学校を目指す。
・音楽科・普通科の魅力ある教育活動の推進とその活動の発信。

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	学校の課題を明らかにして、学校経営に取り組んでいる。	B		
	学校の教育方針や重点的な取組などを、わかりやすく伝えようと努力している。	B		
2　学習指導	教育課程やシラバスを工夫し、生徒の学習習慣の確立や学力向上に努力している。	A		
	生徒自らが課題を発見し課題解決に取り組む、探究的な学びの充実に努めている。	B		
	生徒が何をできるようになるか、何をどのように学ぶかを大切にして授業をしている。	A		
3　生徒指導	生活習慣を確立し、気持ちのよいあいさつができるよう、指導に努めている。	B		
	通学途上や学校生活での安全を確保するため、適切な安全指導に努めている。	A		
	他人を思いやる態度を育て、相互の信頼を深めることでいじめ等のない学校生活を送れるよう配慮している。	A		
4　進路指導	将来を見通した進路選択ができるよう、きめ細かな進路指導に努めている。	A		
	進路に関する情報を適切に提供するよう努めている。	A		
5　特別活動等	生徒の自主性を育成するため、学園祭や部活動の活性化に積極的に取り組んでいる。	A		
	学校行事や生徒会活動等をとおして、ボランティア活動等を支援している。	B		
6　学校図書館	生徒や教職員のニーズに応えられる図書の充実を図り、生徒の読書習慣の定着に努めている。	A		
	図書に関する情報等を適切に提供し、図書館の利用促進に努力している。	A		
7　保健・安全指導	健康診断や保健室での指導等をとおして、生徒の適切な健康管理に努めている。	A		
	教育相談体制の整備により、様々な事例に対して適切に対応できている。	A		
8　人権教育	生徒の人権意識が高まるよう、三年間を見通した人権教育を行っている。	A		
	生徒の人権を尊重し、快適な学校生活が送れるように配慮している。	A		
9　環境教育	教科・科目やホームルーム活動等の指導をとおして、適切な環境教育に努めている。	B		
	学園祭のゴミ減量化などの指導をとおして、生徒の環境意識を高める指導に努めている。	B		
10　事務・管理	良好な学習環境を確保するため、適切な施設・設備の維持・管理に努めている。	B		
	個人情報保護や文書の公開等に対処するため、適切な文書の作成・管理等に努めている。	A		
11　その他 学校の取組	学校のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ等を活用して、学校行事や学校の取組に関する情報を、積極的に発信している。	B		
	定期演奏会やオープンキャンパス等を開催し、中学生の進路選択に役立つよう工夫している。	A		
	地域に開かれた音楽活動と国際交流に積極的に取り組んでいる。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はＡ、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はＢ、
あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はＣ、達成できていない場合（達成度40%未満）はＤとする。

学校のＵＲＬ：https://www.ishiyama-h.shiga-ec.ed.jp/